

長岡京市市民活動応援補助金 採択事業紹介シート(市民提案型協働事業コース)

ママパスポート長岡京／「産後カフェ事業」

団体紹介

0歳～3歳の子どもを育てている女性と街を繋ぐ創造 project として2019年にスタートしました。

市内に住む子育て女性が企画・運営しています。冊子発行と体験型のイベントを毎月開催し、SNSでも発信しています。

「長岡京市在住の何か始めたい子育て女性の自己実現体験」をサポートするエンパワーメント団体です。

採択事業紹介

2020年は新型コロナウイルス感染症が感染拡大し、妊婦さんや出産した女性たちの行動も制限されました。彼女たちが孤独にならないようにオンラインでの繋がりを強化するために、「産後カフェオンライン」を始めました。

新型コロナウイルス感染拡大が少し落ち着いた時期には、オフラインイベントを少人数で開催。場所が子育て支援施設では開催できないので、換気ができる広いスペースを借り、そこで開催するようになりました。主催は常に、フリー冊子の読者でもある子育て女性。チャレンジしてもらい、ママパスポートスタッフがバックアップしました。

地域新聞にも度々取材をしていただきました。(添付資料)

開催した結果や今後の予定など

産後カフェの事業での成果は2つありました。

1つは、「要支援者が支援者になる仕組み構築」、

もう1つは、「女性活躍促進へ ママタメスクールのスタート」です。

コロナ禍は不安で自己肯定感が下がりやすい環境でした。活動は止めず、少人数でも常に感染症対策をして会話・交流することを心がけました。

乙訓の子育て女性たちがママパスに集まるようになり、繋がりが増えて、誰かの役に立つと生まれる自己有用感(誰かの役にたつてと思う感覚)を感じたいママも増えました。

コロナ禍で女性の働き方が変化していくのと合わせて、いろいろなことが産後からでも赤ちゃんと近場で学べる「ママタメスクール」という事業もはじめました。

3月末には、コロナ禍の中で産まれた赤ちゃんと女性たちの労いの会である「ハーフbirthday」というイベントを地域活性の活動の場所を提供していただける企業様と開催予定です。

コロナ禍で新しい生活スタイルになり、地域のつながりが見直されています。その課題をママパスポート長岡京目線でまた解決策を提案していきたいと思います。



ママサポート長岡京
追加資料 1



妊婦・母親交流「関係築いて」

長岡京で催し 西京の女性ら企画



歓談後、華やかに装飾した会場でマタニティフォトの撮影を楽しむ参加者(長岡京市開田3丁目・アンテナ)

妊婦や子育て中の母、3丁目の商業施設「ロコ」の女性たちが気軽に親の交流イベント「ベシグヒル」内の「アンテナ」で始まった。主に「同じ立」が、長岡京市開田3丁目・アンテナで始まった。主に「同じ立」が、長岡京市開田3丁目・アンテナで始まった。主に「同じ立」が、長岡京市開田3丁目・アンテナで始まった。

「ママサポート長岡京」の熱心な活動をSNSで知り、同団体に相談したところ、協力を得られて実現した。初開催の28日は柏原さんを言ひ妊婦3人と同団体の女性10人が参加し、自己紹介に続いて自由なテーマで

「ママサポート長岡京」の熱心な活動をSNSで知り、同団体に相談したところ、協力を得られて実現した。初開催の28日は柏原さんを言ひ妊婦3人と同団体の女性10人が参加し、自己紹介に続いて自由なテーマで

洛西



三 京都新聞

戻

第3種郵便物認可

京

洛西

コロナ下出産の母交流



慣れない子育てへの不安を気楽に語り合う母親たち。オンラインでの参加者も画面越しに交流した(長岡京市開田3丁目・アンテナ)

長岡京市女性が企画・開催

新型コロナウイルス禍での出産を経験した長岡京市の女性が、2020年生まれた子どもが、母親の交流会を市内で開催した。参加者たちは慣れない子育てへの不安を分かち合い、互いのつながりを感じた。

新型コロナウイルスの影響で、育児関連の行事が中止や少人数化され、母親らは利用しづらな状況にある。昨年6月に長女を出産し、育児中の会社員甲斐彩子さん

入浴や寝かしつけ…育児の不安分かち合う

(36)は、母親同士が継続してつながる場をつくらうと、12月末に交流会の企画をスタート。母親をサポートする団体「ママサポート長岡京」の協力を得て、先輩ママたちが運営を手伝い、1月21日に実現した。

同市開田3丁目にある同団体の拠点スペース「アンテナ」で開かれた交流会には、昨年出産した母親10人が子どもを連れて訪れたほか、オンライン会場には6人が参加。グループに分かれ、初産の母親は入浴や寝かしつけなど、初めての育児の困りごとを互いに相談。子連れで行ける近々のカフェや、育児と仕事の両立に関する話題で盛り上がった。

打ち解けた参加者は交流会後も、SNSの共通グループでやりとりを続けている。悩み相談のほか、不要になった育児用品を譲り合うこともあるという。

甲斐さんは「情報があふれて、知りたい情報ばかり着けない母親もいると思う。身近に情報を紹介したり、ささいな不安を解消し合えるつながりが作れた」と喜んでいた。

(梶原蓮菜)

ママサポート長岡京
追加資料 2

